

# 港工同窓会 ニュース

第17号      平成30年5月20日発行      発行責任者 前田武男

## 港工同窓会ニュースから見た

### 再興30年！

港工同窓会会長  
港全3期電力科 前田武男



平成元年に本会を再興してから約30年が経ちました。この間会員の皆様には毎年6月の定期総会をはじめ懇親会等の会運営に多大なご支援・ご協力を頂き理事一同を代表して感謝申し上げます。

母校は高輪・麻布・渋谷の各工業学校が統合により港区愛宕の地で都立港工業高校として発足しました。そのうち卒業生を輩出したとき前身校の先輩方の伝統を引き継ぐ形で同窓会が発会し「港工同窓会」の呼称で、以来会員の懇親と母校の教育活動に協力することを骨子に活動してきました。その後定期総会を開催することも不可能な時期がしばらく続き、冒頭のように再興の運びとなり

不肖  
私が2代目会長を拝命致しました。さて、手許にある同窓会ニュースを読み返してみると、創刊号は平成

14年4月20日。不定期発行としてわずかに4ページ（現在は12ページ）の貧弱なものでしたが発刊することができました。それを見ると平成13年度の総会は約5000通の案内状を発送（平成25年度迄実施）し1500通近い返信をいただき121名が出席しております。

2回目の発送は不定期としながらも以外と早く同年10月5日臨時号ではありますが発行。その折り、港工15代小山実校長よりご挨拶を投稿していただきました。当時の理事諸君の熱意が感じられます。

「同窓会ニュース」は臨時号を含め全28回発行され、私も16回投稿しております。

●平成14年3月  
定時制の閉課程「大田地区単位制工業高校（現六郷工科高校）」の開設備室が設置され、東京都より同窓会にも参加要請、しかし問題山積、例えば学校設置に伴う近隣説明会では定時制があることから夜間の騒音や風紀が悪くなる等々の問題で参加された町会・商店会・住民の皆さんからは設置反対の意見が大勢をしめその説得に苦慮したこと。

〔次ページへ続く〕

### ◇平成30年度・再興30周年記念定期総会

記

日時 平成30年6月16日(土)13時より(受付12時30分)

場所 総会 六郷工科高校1階食堂にて13時より(京浜急行「雑色」徒歩3分)

内容 平成29年度事業・決算報告、新役員承認

場所 懇親会 TKPガーデンシティ品川にて 15時より(「良」品川「徒歩1分」)

会費 5,000円(非会員10,000円) 但し総会のみの方は無料です

◎イベント 世界的マジシャン「前田知洋氏」によるクロスアップマジック

※懇親会参加者付添いご家族の方は無料です。

※会場都合あり、同伴者は事前連絡をお願いします。

※懇親会参加の方は同封の郵便払込用紙の賛助金2,000円印字金額を懇親会費共7,000円に訂正の上郵便局にて事前払込をお願いします。

(ATM機に払込用紙を挿入すれば土、日、夜間もOK)

※準備の都合上、6月10日までに同封はがきで出欠の返信をお願いします。

又、廃校となる各学校のPTAや関係者の意見がなかなかまとまらず、その調整に苦勞の連続。しかし我々が強力な応援団と期待していた都議区議の先生方は誰一人姿を見せませんでした。しかるに開校記念式典(平成16年4月)には来賓として多数参加され、もつともらしい祝辞を述べられていました。何を今更と呆れましたが、これもあれも「どきの流れか、浮世の常か」とあきらめました。

もう一つ私が忘れられないことは、いつの頃だったか、多分、六郷工科高校が認可された頃、たしか第1回目の六郷工科高校との打ち合わせの場で、ある先生が開口一番「わが校は港工業とは一切関係ありませんから！」と港工業を否定するような発言に唾(あ然)としました。「そんなことわかってるわい」我々がどれだけ一生懸命協力し、月1〜2回それも夜の打合せでさんさん苦勞してきたこと「あんたどれだけ知ってるん」悔しさと怒りがこみ上げ思わず席を立ったこともありました。

- 平成15年3月8日  
定時制「愛宕を惜しむ会」(メルパルク)開催。
- 平成15年6月7日。  
母校での最後の総会が午後1時から開催されましたが、定刻前から三々五々集まり、総勢108名、とても盛会でした。

● 平成16年3月31日開校  
私は閉校事業実行委員長を仰せつかり、同窓会として全力をあげ協力、同日「フオーエバー愛宕(港工の集い)」(芝パークホテル)には旧教職員を含め250名余りが参加された。しかし閉校となる卒業生が居なくなり同窓会費の入金がなくなり、同窓会の運営資金が不足します。そこで、みなさんのご支援(賛助金の納入)を得、なんとか現在に至っております。

● 平成16年4月  
都立六郷工科高校「開校記念式典」に参列。

● 平成16年6月12日  
初めての定期総会を六郷工科高校で開催。91名が参加しました。(懇親会、羽田東急ホテル)

● 平成16年10月30、31日  
六郷工科高校の文化祭に「港工同窓会」をアピールすべく「ブラス(港工同窓会の部屋)」を設置し、「港工同窓会」のホームページを開設しました。

- 平成20年6月14日  
再興20周年記念総会が六郷工科高校で、記念懇親会は芝浦の料亭「牡丹」で特別企画マジックショーとして、世界的マジシャン前田知洋氏(36期C卒)が出演参加しました。
- 平成22年10月20日発行の  
同窓会ニュース10号より一部カラ

印刷となり、写真などがより鮮明になりました。

● 平成22年10月24(日)25(月)  
かねて懸案であった同窓会親睦旅行が鬼怒川温泉で実施され、参加人数8名。その後毎年行われている。

● 平成25年10月5日  
六郷工科高校の創立10周年記念式典に私が参列し、祝賀会には松岡理事と共に参加した。

● 平成25年6月15日の  
総会で松岡会計理事よりこれまで住所判明者約5千名全員に会報を送付していることが同窓会の財政を大きく圧迫していることから(平成25・10・20日発行臨時号及29・4・20発行16号に掲載)今後は賛助金(会費)納入者及び恩師等約2千名に絞ることで総会承認、やや遅きに失するが平成26年度から実施した。しかし今回は再興30周年であることから住所判明者約4千名に案内状発送。

● 平成24年4月20日発行11号  
に「港工、校舎について」掲載あり。ホームページに田中二昭氏(18期A卒)「お役目終了後の我が母校の姿」「いよいよお別れ、母校の痕跡」(写真入り)投稿。

● 平成21年度の総会より参加者が段々減少し32名となり、22年度27名、23年度40名、24年度28名

25年度46名(世界的マジシャン前田知洋氏出演) 26年度46名、27年度49名、28年度31名、29年度は品川駅前会場に移したせい41名の出席でした。

私は、常々理事の皆さんには協力出来る範囲で参加していただきたいと申しあげてきた。しかるに理事の皆さんは貴重な時間と労力を費やし、遠方(野田市・草加市・町田市・調布市など)から参加し、同窓会ニュースの編集・作成・発行・郵送、また総会出席の名簿・名札の作成等の準備・懇親会場の設営、あるいは返信がきの整理、住所変更(年間約200件ほど)等の会員名簿の修正作業、毎月の理事会、その外種々の打ち合わせ、また私費による新年会・忘年会・旅行会など努力と協力的なみなみならぬ苦勞の末、なんとか活動を続けてきました。しかし、皆さんはみなみなならぬ苦勞を楽しんでいるかのように見える。私もそのうちの一人かも知れない。

私は喜寿(77歳)を迎えたとき引退を考えました。しかし、亡くなられた会員の奥様やお母様からの励ましのお言葉やご寄付を頂きました。そういう方は今もいらつしやいます。私が引退を考えたとときから10年近くが過ぎました。

「が今少し楽しんでみようかな！」

六郷工科高等学校のシステム工学科について

東京都立六郷工科高等学校 オートモビル工学科教諭  
杉野 栄一（港工同窓会理事 港全28期A卒）

私が通学していた45年前頃の母校は機械科・自動車科・電気科1組・電気科2組・電子科がありました。本校はプロダクト工学科（機械系）・オートモビル工学科（自動車系）・システム工学科（電気・情報系）・デザイン工学科（デザイン系）・デュアルシステム科の5つの科があります。今回は、システム工学科について説明します。システム工学科は、発電・送電・配電などの強電関係、またはコンピュータを中心とした情報技術について、幅広く学習する科となっております。母校の電気科と電子科とを合わせた科となっております。

六郷工科高校の特長の一つでもある履修パターンというのがあります。この履修パターンは各科に2つ用意されていて、システム工学科では2年次から2つの履修パターンに分かれて実習や座学を行います。ひとつは電気システムといい、電気・電子に関して、基礎的な分野を学び、電気工事は全員取得を目指しています。もうひとつは、コンピュータシステムといい、コンピュータ等の情報技術について、ハードウェアやソ

フトウェアの基礎を学びます。将来、コンピュータ関連のエンジニアやネットワーク技術者を目指して、進学・就職をします。

専門科目名としては、電気実習・電気基礎・電気機器・電力技術・電気製図・電子技術・情報技術基礎・コンピュータシステム実習・ハードウェア実習・プログラミング実習・ハードウェア技術などがあります。諸先輩方、とても懐かしい科目名とか初めて聞く科目名があるかと思えます。



実習室

先進技術の知識や技能の習得を目指して学習しています。主な資格取得としては、第3種電気主任技術者、DD第3種工事担当者、第1種電気工事士、第2種電気工事士、情報技術検定、P検（パソコン検定）、基礎情報技術者検定、情報技術検定、計算技術検定、初級アドミニストレーターなどがあります。

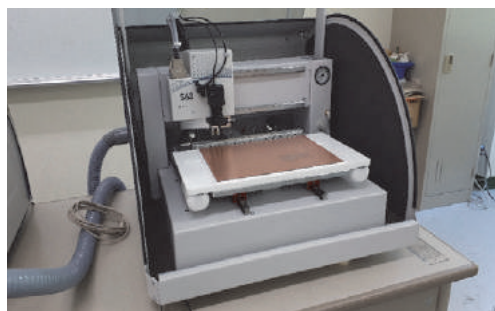
最近入った装置について説明します。ひとつ目はレーザー加工機です。レーザー加工機とはレーザービームであらゆる素材に彫刻・切断などをする工作機械で、世界でただ一つのオリジナル作品が出来る機械です。元々は、手作業で加工していたものをレーザー加工機で加工することにより効率よく時間が使えるので、



レーザー加工機

授業時間を有効に使うことができるようになります。

次は基板加工機です。基板加工機とは、CADソフトウェアで作成された基板データを基板加工機に送るとすぐに基板製作が始まります。必要に応じてドリルタイプの基板加工機、またはレーザーシステムを使い分けることができます。レーザーシステムは超微細加工やRF基板に適しているといわれていますが、本校ではドリルタイプを所有しています。また、片面、両面基板の回路をテストして設計の不具合等があるとCADデータを変更してすぐに基板を作成しなおすことが出来ます。先輩方が使っていたエッチング液はもはや必要ないそうです。



基板加工機

◇平成30年度定期総会懇親会

再興30周年の記念イベントとして、世界的マジシャン前田知洋氏に来演をお願いしました。お馴染みのNTV「世界仰天ニュース」出演をはじめ、ご多忙の中、出演了承を戴いています。会員の皆様には是非ともご来場し、妙技をご堪能下さい。プロフィールを紹介いたします。

★クロスアップ・マジシャン

港(全)36期電子科卒  
東京電機大卒

プライムタイムの特別番組をはじめ100以上のテレビ番組やTVCMに出演。LVMHグループ企業からブランド・アンバサダーに任命されたほか、歴代の総理大臣をはじめ、各国大使、財界人にマジックを披露。海外での出演も多く、英国チャールズ皇太子もメンバーである「The Magic Circle London」のゴールドスターメンバー。連載や執筆を多く、著書に『知的な距離感』(かんき出版)『人を動かす秘密のことば』(日本実業出版社)『新入社員に送る一冊』(共著)『日本経団連出版』『芸術を創る脳』(共著)『東京大学出版会』『女性のためのマジックレッスン』(東京堂出版)など。

恩師出席予定

- 和泉 勲 (第14代校長)
- 木村 武敏 (教頭) 全
- 相川 英昭 (教頭) 全
- 山田 信幸 (電気) 全
- 広橋 恭二郎 (電気) 定
- 西原 要四郎 (教務) 定
- 豊山 州生 (自動車) 全
- 両角 亮一 (数学) 全
- 甲斐 徳隆 (英語) 全
- 杉野 栄一 (自動車) 全

平成30年4月20日現在

(敬称略)

※懇親会の会場を昨年から交通便利な品川駅前に変更し、好評でした。同級生やクラブの先輩、後輩等お誘い合わせの上、ご参加されましよう。ご案内申し上げます。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

恩師 訃報

- 加藤 琢二 (電気) 全
- 井上 和夫 (事務) 定
- 乙部 昌代 (養護) 定

ご冥福をお祈り申し上げます。

訃報

本会計理事 加藤琢二先生には、平成29年9月9日、逝去されました。

加藤先生は港工業高校全日制電力科第3回(昭和26年)卒業生で、昭和26年より平成4年まで母校港工業電気科にて教鞭をこられました。

平成元年度の港工同窓会再興に際し、メンバーの中心となって準備に奔走され、今日の本会の形式を立ち上げました。

母校卒業以来、定年まで港工業一筋で、校内事情に明るく、港工同窓会会務のほとんどが加藤先生のご努力の賜物です。

故高橋光春先生から名簿の管理他会務を継承、平成元年の再建総会開催へと繋がり今日があります。定年退職後も会計理事をお願いしていました。

ここに、加藤琢二先生のご遺徳を称え、感謝すると共に、慎んでお悔やみ申し上げます、会員諸氏にお知らせいたします。

港工同窓会

第2代会長 前田武男

◎平成30年度・秋の六郷祭は

10月26日(金)午後1時～4時

10月27日(土)午前9時～3時30分

に開催されます。 ※金・土です

○校内自動車工場には懐かしのA型

フォードが保存されています。

設備の多くに港工高の昔の機器が活用されている校内を見学できま

す。

○港工同窓会の部屋を用意します。

見学後の休憩・歓談にお立ち寄り下さい。

住所変更や会員消息のお届け、お問合せ、また賛助金の納入も受け付けます。

※展示資料

- ・各期毎の卒業アルバム
- ・港工1期～56期卒業生名簿
- ・高輪工業、麻布工業卒業生名簿
- ・港工創立20周年記念誌
- ・同 50周年記念誌
- ・港工閉校記念誌
- ・「港工高新聞」縮刷版他
- ・港工高関連のビデオ映写

返信ハガキからの近況・想い出(特別会員30年度)

旧(第10代)校長 村上 五雄

同窓会30周年お目出度うございませう。小生こと、前田会長と、同窓会再興のことを話し合ったとき、総会を開催するには多額の費用が必要になるとお聞きしたことを思い出しました。それから30年を経ってきたことを、まことに意義の深い思いがいたします。今後一層のご努力あらんことを祈念申し上げます。

旧(第12代)校長 関 透

脳梗塞、脳出血から2年経ちますが、ほぼ毎日デイサービス、デイケアに通所して小康状態を保っております。以前のように自力で活動することや思うように話すことが出来ず、同窓会等は遠慮させていただきます。

代筆 長女

旧(第14代)校長 和泉 勲

久しぶりに参加させて頂きます。港工3年間でしたが、数々思い出があります。生徒達、先生方、同窓会、PTA等思い出します。

旧(教頭)定 市川 勝緒

年々体力が低下し、今回も欠席お許し下さい。ご盛会をお祈りします。

旧(教頭)定 三谷 和夫

健康です。我孫子市史研究センター、我孫子の文化を守る会、手賀沼アララギ短歌会、流山博物館友の会などに所属しています。アピコの文化を守る会で嘉納治五郎銅像建設のため募金活動もやっています。その他語り部として「東葛地名考」「白樺村について」「昭和初の軍国主義教育」などのおしゃべりをしています。

旧(教頭)全 木村 武敏

30周年記念おめでとうございませう。伝統校の校名はなくなりましたが、同期会が良き伝統を守って下さっていることに敬意を表します。

旧(教頭)全 相川 英昭

港工同窓会の再興30周年おめでとうございませう。同窓会のみずみずのご繁栄を祈り上げます。

旧(教頭)全定 桑原 洋

週に3日授業をもっています。土曜日の午後にも授業があり、参加できません。

旧(教頭)定 石井 良二

何時もお知らせ有難うございませう。

旧(事務長)全 福田 和廣

20年経過しても思い出します。工業高校に異動すると、必ず一人ぐらいは「港工」でお世話になった先生にお会いすることが出来ます。現在、足立工業高校にて非常勤職員として働いております。

旧(電気)全 山田 信幸

健康とボケ防止の為、会社のOB会で淑女軍団に囲まれコーラス会で歌っています。

旧(数学)定 岩瀬 重雄

高齢になり、病後は外出が出来なくなりました。

旧(電気)全 小又 良一

チェンバロ奏者の妻が5年前に亡くなり、愛宕山のトンネル出口近くにあったペット屋で手に入れた黒猫ネロとその家族も10年前に亡くなり、妻は子供の国近くの霊園に、猫達はその隣のペットの墓で眠っています。一人暮らしの私は4年前にガンになり覚悟しましたが、港工の隣の慈恵大の先生に救われました。港工に勤務したことが縁で妻と出会えたことができたことを感謝していますが、それだけでなく港工の存在そのものが私を支えてくれたのだと思っております。

旧(電気)定 阿部 永雄

歩行が大変になりましたので、これからも出席出来ないかと思っております。

旧(教務)定 西原 要四郎

尽きることのない思い出は生きることの楽しさを醸し出して呉れます。

旧(体育)全 小笠原 将幸

一昨年、昨年と2年連続で出席させて頂いたのですが、今年には勤務していた他校の同期会と重なり、しかも「古希祝の会」ということで、是非出席してほしいと請われております。因みに私の傘寿祝も兼ねております。本年は悪しからず失礼させていただきます。皆様によろしく

旧(電子)全定 大谷 忠雄

何の心配事もなく、元気そうに生きています。今年には年男、84才になります。

旧(自動車)全 中井 泰也

真事に恐縮です。本年も欠席をさせていただきます。

旧(給食)定 佐藤 清子

新緑さわやかな好季節となりました。日々かわりなく過ごしております。出かけるといえば、内科、整形、歯科に通院しています。港工業時代がなつかしく思ふ今日此の頃です。

旧(自動車)全 豊山 州生  
「昔の光いまいずこ」ではないです  
が、いつのまにか80の大病を超えて  
いました。(81才)

旧(体育)全 吉野 尚也

自動車科第22期生のクラス会を毎年  
開催し、昨年は10月28日に我が家で  
集まり、旧交を温めました。小生5月  
で79歳。また学校法人竹早学園の理  
事長を元気でやっています。

旧(社会)定 藤崎 ミヤ子

家族に大きな変化があり(双児の孫  
が誕生)転居しました。生まれ育った  
街(東京日本橋)で、港工高に通勤し  
た頃と同じ御店があるとうれしくて  
ルンルン! 観光で訪れる人が多く、  
賑やかです。同窓会のお世話いただ  
いている方々、厚く御礼申し上げます。

旧(機械)定 福富 千明

昨秋、六郷祭の同窓会談話室にお邪  
魔いたしました。いろいろのこと  
くれなずむ冬ざくら”の思いを窺  
い知る展示でした。

旧(数学)全 両角 亮一

一年間過ごせた事に感謝し又皆様  
にお会い出来ることを楽しみにして  
います。

旧(英語)定 福井 祥

過日、昔の同僚と歩き、港や港周辺の  
変容振りに驚きました。新橋の一面  
の飲み屋街は変わらず、懐かしく酒  
を傾けました。一年中無仕事の2年  
目。のんびり、まあまあ元気にやっ  
ています。ご盛会を祈ります。

旧(電子)全 菅原 彪

体調が悪く、欠席させていただきま  
す。

旧(英語)全 馬場 幸雄

昨年の同窓会では何人かの卒業生の  
方から私の港工での授業を覚えてい  
るとの話を開き非常にうれしく思  
いました。今回は他の会合の為出席で  
きず申し訳ありません。

旧(電子)全 北島 敬己

年を経ても生徒と文化祭で夜遅くま  
で頑張ったことを忘れられない。い  
い思い出です。

旧(養護)定 乙部 昌代

平成30年3月6日、交通事故で死亡  
しました。 姉

旧(体育)全 小川 幸吉

社会人としての原点、港工!! 通信を  
楽しみにしております。夏の甲子園  
が100回大会になります。

旧(国語)全 吉川 英雄

当日公務のため欠席させていただきました  
ます。担任をした36期(E2)のCク  
ラスにいた前田さんが参加すると知  
り、ぜひ参加したいと思っていました  
たので残念です。小生、竹台高校長を  
最後に定年退職し、現在は南葛飾高  
校で、進路指導、広報活動及び若手教  
員の育成のお手伝いをしています。  
元氣です。又皆様とお会いできるの  
を楽しみにしています。

旧(国語)全 花田 恵子

昨年より非常勤で国際高校に勤務し  
ております。

旧(電気)全 諸富 宏行

港工時代のなつかしさが思い起こさ  
れます。

旧(英語)全 上田 みつ子

年号が平成に変わった頃、港工業に  
異動になり、2年目に娘が生まれま  
した。その娘も今年母になる予定で  
す。再び新しい年号が検討されてい  
ます。変化の大きな時代、取り残され  
ていく感覚は否めませんが、良い伝  
統は、残って欲しいです。港工  
業は、勤務当時から工業高校の中で  
の伝統校と言われていたと思います。  
立派な先生方に職場で出会えました  
ことを感謝しております。

旧(国語)全 矢部 玲子

現在の勤務先、「北海道文教大学」へ  
のご入学お待ちしております!

旧(英語)全 十亀 有紀

先日、日比谷通りを歩いた時、文化祭  
の材料買い出しで生徒たちといっし  
よにはしり回った思い出をふと、ふ  
りかえりました。なつかしいです。

旧(電気)全定 砂川 海廣

残念ながら今回も行けません。

旧(家庭)全 檜垣 栄恵

港工業で教員を退職した後、非常勤  
講師を続けておりますが、今年度は  
大田区の高校ばかり勤務することに  
なりました。住まいも六郷工科から  
遠くないので、折にふれ六郷工科の  
話題が出ます。港工業の同窓生のみ  
なさまの中には大田区の企業に関わ  
っていらつしやる人が多いというか  
つたことがあります。オリンピック  
のボブスレー(や、また新たなもの  
にチャレンジをする方の中にも港工業  
の同窓生の方がいらつしやるのでは  
ないかと思いをめぐらしております。

旧(英語)全 佐藤 芳教

この4月より東京都教職員研修セン  
ターにて次世代リターン育成の仕事  
をしております。

旧(事務) 国分賢司

気持ちには昔の港工業に向かうのが遠方のため(山口県在中)失礼します。ことし2月に港工業跡地をたずねました。病院建設が進んでおり隔世の感を新たにしました。

旧(数学)全 田神 仁

私は、3年前に都立広尾高校の校長を定年退職しました。現在は法政大学、武蔵野大学、洗足学園音楽大学で非常勤講師として教職課程の授業や教員採用試験の指導をしております。港工業以来20年ぶりの授業ですが、学生相手に指導するのは楽しいです。皆様によりしくお伝えくださいます。

旧(数学)定 清水 隆夫

所用のため、欠席させていただきました。

旧(保体)定 小宮 徳健

現在日野高校に勤務しております。港工業に勤務した頃が懐かしく感じます。あの頃は生徒の皆さんから多くのことを私自身が学びました。教師としての基礎を培養 学校で今の私があるのは港工業のおかげです。

旧(事務) 瀬戸山喜陽子

盛会をお祈り致します。

旧(社会)全 藤井 恵子

教員生活も35年目となりました。そのうちの26年間は工業高校勤務、とりわけ港工業には11年間もお世話になりました。閉校となり校舎も消えてしまいました。思い出は強く胸に残っています。年に1回OBの方々(もう第一線の社会人ばかりです)とお会いできるのが大きな楽しみとなっています。

旧(自動車)全 大塚 健一

6月第1週、第3週は、別の用件が入っていて欠席致します。

29年度追加分(正会員)

港定20期MB 岩阪 雅文

7月に上京しました。帰郷以来やがて50年、古希を迎えました。年々懐かしくなるばかりです。久しぶりの新橋駅付近、あまり変わっていませんでした。故郷は少子・高齢化、人口減少は進むばかりです。

編集部より 熊本在住の方

港定20期E 永野 仁芳

次回の港工同窓会を楽しみにしていますが、もつかどうか、老化的ため

編集部より 昨年懇親会に

出席された卒業90才の方

寄稿文

「長生きすればこそその再会」

港工同窓会副会長 港定8期M

海野 鑑一

昨年11月15日に機械科8期生のクラス会を開催。卒業以来62年の歳月が流れていた。

恩師存命中には数回の集いを持つたが、その後休眠状態が続いていた。我々が卒業した時代は経済一等国へのエポックメイキングにひた走ったランナーの一員でもあった筈であり、働きずくめの日々でもあったと思えます。

そんな同輩たちが少し落ち着いたのがバブル崩壊や定年期を迎えたころであった。母校の廃校ニュースと併せ同窓会総会に7、8名が参加しています。この折に古希を目安に再会を約したが、次々と他界或いは闘病生活と再会への計画が遠のいていった。小生も同様でこの10年間は入退院の繰り返しであった。

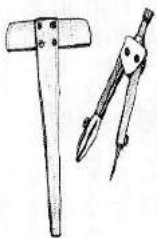
以来あつという間の15年であったが、昨年佐藤(良)、村井両君の協力を得て、8M40名の内、半数強の消息を掴み今回、13名の出席を得て開催することが出来た。

故府川喜作先生や他界した友人達との在りし日々を偲びながらつきぬ

話題に時の経過を忘れて大いに酒盃を重ね談笑した。かつての紅顔の同輩各位には、その容姿に相応の年輪を刻み、みごと後期高齢者になっていた。

しかし、往時の同年齢者と比べれば心身とも生意気横溢し若さを保っていることに気付く。正に、世界に冠たる長寿国の証しを感じた次第である。今回都合で欠席の級友も含め来年度の再会を約して散会した。

最後に、住所録補強にそして開催に尽力頂いた、佐藤(良)、村井、細谷各位に厚く御礼申し上げます。



第14回六郷祭

六郷祭で感じた港工との絆

港生 19期 E1 加藤 誠

平成29年10月28日(土)～29日(日)に都立六郷工科高校の『第14回六郷祭』が開催されました。玄関で、「ねぶた」のお出迎えを受け、プログラムを受け取り見学を始めました。



六郷祭 プログラム

オートモビル工学科の展示場示入ると、母校で自動車科の実習等で活躍していたA型フォード車がすぐ目に留まって感動し、看板にも「港工業高校から移管された」と明記されていました。奥に進むと、ホンダエコマイレージチャレンジに出場したエコカー2台が展示されていて、港工閉校記念誌(平成16年3月)に掲載されている自動車科のホンダエコノパワールール連続出場の記事を書いて出し、母校との絆を感じました。



A型フォード

デュアルシステム科では、生徒が企業で長期就業訓練(1か月間)した活動内容と感想がポスター展示されていて、苦労した話や仕事体験で自信がいった話などをじっくり読んでみると、就職した会社で初めて学ぶコンピュータ・プログラミングで苦労しつつ、技術習得が面白くなっていった新入社員頃の自分と重なりました。

プロダクト工学科は写真撮影用の顔出し枠のある大きなPR看板を廊下に飾り、デザイン工学科では、夕張キャンブ(東京都の代表選抜で選ばれて夕張市へ派遣される)及びデザセン(全国高等学校デザイン選手権大会)に2年連続出場した記事などの活動実績がポスター掲示しており、母校の港工祭や運動会でも色々なPR看板及びポスターを貼って来場者の興味を引くように皆で頑張ったことを思い出しました。

六郷祭は、生徒の向上意欲とサービスピリットが伝わってくる楽しいイベントでした。今後は、先進技術(電気自動車や自動制御技術、AI技術やネットワーク活用技術等)を取り入れた研究テーマの発表・展示等を加えて、さらなる発展を期待いたします。

ありがとうございました。

今回、港工同窓会理事として初めて対応するため、2階に開設された港工同窓会展示室に行くこと、入口前に港工同窓会の看板と、高校の沿革説明図等が飾られ、受付の横に設置されたディスプレイでは、NHK番組「プロジェクトX 挑戦者たち」で、VHSビデオ開発で世界規格を創出した企業人に港工卒業生もいる映像等を流して紹介し、白板の前には記念誌及び卒業アルバムが年代順に並べられ、休憩テーブルには来室者へ提供する茶菓が用意されていました。

同窓会展示室風景



展示室に来訪された方との出会いで感動したことは、子供連れの母親が卒業アルバムを5〜6歳の男の子に見せて「どの人がお爺ちゃんか判る？」と聞くと、すぐに指さしたのを見て母親がビックリし、その姿を写真に撮る様子を見ていた私達も驚き、卒業アルバムの写真をコピーして進呈し、大変喜ばれました。

なお、来室した六郷工科高の女子生徒達が茶菓で楽しそうに談笑する姿に、男子校にはない明るい雰囲気を感じましたが、来室された同期生との50年ぶりの懐かしい会話や、諸先輩方の昔話と港工卒業生の活躍の話などを聴いて、自身の原点でもある母校を嬉しく思いました。

六郷祭が終わり、展示室の後片付けを手伝って展示物を収納する会議室に入室すると、キャベネットに数々のトロフィーや盾、表彰状などが飾られているのを見つ、中を覗くと港工の歴史を物語る品々であることが判って驚くとともに、感銘を受けました。

都立六郷工科高校のことは、同窓会ニュースで母校が閉校となった平成16年4月に開校し、港工の学籍を引き継いだことなどを読んで知ってはいましたが、実際に校舎を見て中に入ると六郷祭を見学し、港工同窓会展示室の手伝いをしながら色々な人々と触れ合えたことで、港工と六郷工科高との絆が今も繋がっていることが体感でき、感動するともに、港工同窓会が絆を育む大切な役割を果たしていることに気づいて感謝するとともに、絆を太く、永く伸ばすために微力ながら同窓会ホームページ担当として努力することを決意した次第です。



港工同窓会旅行「鬼怒川温泉」  
港全志 12期E2 中西悦夫

同窓会旅行も7回目。今回は第1回旅行と同じ鬼怒川温泉となった。第1回旅行に参加した理事仲間2名は既に亡き人となつてしまった。私は、いわゆる「鉄ちゃん」。「鉄ちやん」とは鉄道マニアのことで、「撮り鉄」鉄道写真の撮影「乗り鉄」鉄道乗る趣味」等々。私はどちらかと云うと、「乗り鉄」派だ。

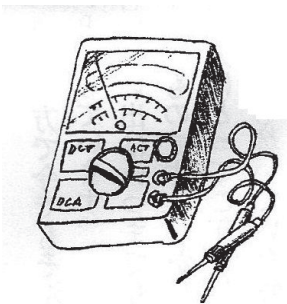
鬼怒川温泉は東武線。通常は浅草から乗車するが新宿から行く方法がある。新宿はJR線、鬼怒川温泉駅は東武線。即ちどこかでJR線から東武線に乗り入れなければならぬ。鉄道に興味が無い人は「そんなことどうでもいいじゃないか」と思われるだろうが、マニアとしてはとても気になる。その地点は「栗橋」だ。ここはJR東北本線と東武日光線が交差するところ。JR大宮駅を出て暫くすると栗橋駅。いったん停車。だがドアは開かない。ここで乗務員が東武の職員に交代することとなる。

JR新宿駅で東武の特急列車を待つていたら、同窓会旅行仲間のNさんとSさんが来た。やがて列車が到着し車内に乗り込んだら、何とガラガラ。途中駅で乗る人がいるかと思っていたが、ほとんど増えることもなく結局鬼怒川駅まで乗っていた人は

十数人位だったか。日曜日の午後下り方面に乗る人は少ないと云うこと。この日は、あいにく雨模様。鬼怒川駅に着き、駅前の売店で二次会用の酒類やおつまみを仕入れ、同行の二人と分担して持つ。パス便もあつたようだが、ブラブラ歩いてホテルに向かう。傘を差すほどでもなかったが、歩く距離がわからず少々不安になったが、思ったより駅から近くまもなくホテルに着いた。

妙なホテルだった。受付（ホテル入り口）は6F。入り口が1Fではないホテルは珍しくもないが、ここは本館以外に3棟あり、同じ平面にありながら棟によって入り口が3Fになつていたり、1Fになつていたり。方向音痴の人が来たら、たちまち迷つてしまふだろう。私も入館時には迷つてしまった。これは直ぐ裏が鬼怒川なので、このような構造になつてしまったのだろう。

参加予定の10名が揃い、バイキング会場に向かった。18時開始の予定だったが、客数が多くて2回に分けられ、我々は後半の部で食事をした。食事前に部屋で少し飲んでしまったので、酒が進まない。食事時間が遅かつたので二次会開始も遅くなった。翌日もあいにく小雨。他の行楽地へ行く選択をすることも無く、朝食後は全員駅に向かい、駅前で煙を吐くSLを見ながら帰宅の途についた。



（東海道線・湯河原駅から20分位）

平成30年・同窓会旅行

場所：湯河原温泉（熱海少し手前）  
「ホテル四季彩」  
日時：10月14日（日）～15（月）  
費用：¥10,000（交通費別）  
詳細資料請求の方は下記へ  
（参加の有無に関係なくお送りします）  
連絡先：旅行幹事・中西悦夫（12E2）  
042-561-8242（夕方以降不在多）  
又は、事務局・松岡 まで

第8回・同窓会旅行  
今秋（平成30年度）の旅行は  
湯河原温泉を予定しました。  
第2回目に行ったところです。

20周年記念誌より

## 戦前と戦後

高輪二本6期M  
元教諭機械全定 曾布川 亘

二十メートルも手前から、校門に立つ週番上級生の姿をみとめて、ピリツとした。制服のボタンがはずれていないか、襟章はまがついていないか、歩きながら手さぐりで改め、学帽をかぶり直した。やがて、直立不動の姿勢、挙手の礼、週番のさぐるような視線を全身に感じながら校門を通過した。昭和十四、五年―十八、九年、戦前の学校生活は、毎日、この緊張ではじまった。

港工高の前身、東京市立高輪工業学校は、当時、品川駅から徒歩十分、泉岳寺近くの国道ぞいにあった。石段を登りつめたところに、大公孫樹がそびえ立ち、この石段、大樹と、左右に開かれた鉄の門、そのすぐ奥に見えるうす暗い玄関口とが、対照的で、古びて、せせこましくはあったが、校門としての景観は整っていた。私には、この印象が今なお強く残っている。

玄関を通り抜けると小さな中庭に出る。中庭といっても、外庭も、運動場もほかにあるわけではない。たった一つの遊び場であり鍛錬場であった。木造二階建ての校舎や実習場が、この中庭をぐるりと取り巻いていて、ロの字形にたっていた。もとは小学校の校舎

であったが、古く使えなくなつたので、近くに鉄筋校舎を建てて移転したあとの、いわば廢屋がわが校舎であった。北側校舎の裏手には、太い角材のつかい棒が、何本もしてあった。廊下を走るとは厳禁であった。しつけない意味もあったろうが、危険だからであった。夕礼の後、ぞろぞろ連れだつて階段を昇ることはできなかった。階段はいつ落ちるかわからなかったからだ。こんなオンボロ校舎でも、私たちは強い愛着を感じていた。母校に対する愛慕の情、勉学へのひたむきな情熱が、有形の校舎に転移していったのであろうか。

私たちの学校生活を支えたもの、それは校是校訓であった。

至誠建設

学ンデ思ヘ

静カニ強カレ

和シテ同ゼザレ

入学後まもなく、私たちはこれを暗誦した。そしてやがて、心身にしみこんでいった。上級生に暗誦せよといわれた覚えはある。しかし、先生や先輩から、語句の解釈や出典の説明を聞いた覚えはない。卒業後、ずっと後になつて、三つの校訓は（全部でないかもしれないが）論語からとったと聞いたこととはある。しかし当時の私たちには解釈や説明は不要であった。簡素で平易に表現されているこの校訓はそのまじかに私たちにしみこんで、私たち

を形づくり、私たちを励ましたものだ。上級生になつたころ、校長も代わり、先生方も大分代わつてこの校訓は廃され、新しいものが示された。急迫した時局の影響か何か知らないが、それだけの理由はあったのであろう。しかし私は非常な悲しみと憤りを感じた。学校の方針に対して、学生生徒が抗議するとか、抵抗運動を起こすとかは、そのころ考えられもしなかった。そういう社会情勢であり、教育であった。

私は、おれの校訓はもの三つだと強く心に誓つて、ひとりひそかに抵抗した。おそらくこの心境は私ばかりではなかったであろう。新しく示されたものは、何回も読んだにちがいない。しかし今は何も記憶に残っていない。

私たちは、よく先生方の批評をした。とりとめのない噂話にも心はずませたが、先生の人間性、授業ぶり、実力云々が主で熱中した。私たちは、食欲なまでに、先生方から何事かを学び取ろうとしていたのだ。批評転じて悪評となることもしばしばあったが決して悪感情はいだかなかつた。私たちは第二本科、いまの定時制に学んだから、皆、昼間は仕事を持っていた。職工、見習工、給仕、店員などが多かった。授業中、昼間の疲れで机にうつ伏してしまふものもいたが、皆一様に元気であった。教室へ入つて級友の顔を見ると仕事の疲れはすつとんだ。学校へ来るのが楽しくつてならなかつた。

た。始業前、放課後、時間があれば、鉄棒・バレー・キャッチボール・卓球・角力・柔道・剣道、できるものは何でもやった。勉強も一心にやつた。

私は戦後教師となり、この四月まで十八年間、母校である港工高に勤めた。とくにこの二十何年間には、働きながら学ぶ定時制生徒とともに歩んできた。時代が変り、世相が変れば、人の考え方も、生き方の変わるのはいくらもなだ。学生生徒といえども論外でない。私は自分の歩んだ戦前の学生生活をすべて肯定して、現在の生徒を批判し、非難しようとは少しも思わない。むしろ、戦前の生徒に欠けていたものを多く持つていて、いまの生徒は立派であり、幸福であるときえ思っている。にも拘らず、私たちの過こした学生生活を思いおこすとき、現在の生徒に一言言わざるを得ない情に駆られる。教師の説教癖とも言うべきものだろうか。私たちのクラスにも地方から上京してきた、下宿や住込みの友はかなりおつた。そして皆、一刻のゆるみもできない苦しい生活を送つていた。しかし粘り強さがあった。一年に入学したときの人数は四十五人、途中で六人退学していった（一人は少年航空兵に志願した、一人は死亡、二人は病気が五人編入学して卒業のときは四十四人だったと覚えている。容易なことでは脱落しなかつたことをこの数【次頁下段】へ

50周年記念誌より

50周年を祝して

第12代校長 関 透

私の二度目の港工着任は、平成3年4月からでした。そして、定年で退職する平成7年3月まで4年間勤めさせていただきました。50周年に向けてその頃から準備を進めてまいりましたが、ようやくその日が訪れました。喜ばしいことです。幸い私にもページが与えられましたので、その頃の学校の状況などを書いて見たいと思います。

最初の港工着任は、昭和34年電気通信科(現在の電子科)の新任教師としてでした。当時の施設は、現在より少し狭く、設備も現状より大分貧弱でしたが、生徒は、電子工作などに興味を持ち、白黒テレビ制作実習などでは、私自身もずいぶん学ぶところがありました。丁度、工業立国の始まりの頃でしたので、港工への入学も大変難しい時期でした。

平成3年3月末、久しぶりに二度目の着任が決まり、挨拶のため港工を訪れました。昔の新橋の飲み屋街も大きく変貌し、大きなビルが建ちならび、道を間違えて迷ってしまったくらいです。しかし、港工の施設は、実習棟を複雑に増改築しただけで、昭和初期に建てられた愛宕高等小学校の校舍

を、いまだに使用しているのには驚きました。これも港工に今まで勤務された先生方が、この校舍に強い愛着をもっておられたからでしょう。テナスコート一面位の大きさの狭い校庭。夏になると近隣のビルからの熱気が教室にこもり、大変な暑さになる。校舎の外壁の一部が、はがれて落下する。トイレの設備が古く不快感がある。など施設設備面で多くの課題があり、その対策に、教員も事務職員も予想外の力を注いでおりました。PTAや後援会の会長さんのご協力で、運動場の確保(共同利用)や教室の冷房など陳情しましたが、実現できませんでした。

東京都の見解では、現在の場所では校舎を建て替えることは技術上不可能ということ、新しい建設場所が入手できれば、広い校庭のある新校舎も夢ではないが、今のところそのような朗報は聞いていません。

このような恵まれぬ施設のもとで、教師も生徒も一所懸命努力し、それなりの成果を上げることができたのも、熱心に指導されたクラブ顧問の先生方のなみなみならぬ献身と、つらい条件に耐えた生徒の努力の賜と思っています。

平成6年度より、都立高校の入学選考は、各校単独選抜になり、学校の特色を出すことによって、それぞれの学校の存在価値があるというような世の中になってきました。本校は、どんな

な特色があるのだろうか。都心のオフイスビル街にある港工は、JR新橋、地下鉄銀座線虎ノ門、地下鉄日比谷線神谷町、都営地下鉄三田線御成門の各駅から徒歩で通学できるという大変交通便利な学校といえるでしょう。さらに、毎日接するビジネスマンの様子を見聞きし、自然に都会的センスを身につけるといって有利性があると思います。また、先生方の指導の中に物を大切に扱うという方針が強く打ち出され、自由な風紀の中にも、「己にきびしくあれ」という思想が根底に流れている伝統のようなものを感じています。

他に特徴というくと、都立工高の中でも全日制では2校しかない自動車科のある学校といえるでしょう。全国自動車教育研究会の事務局を永年にとり担当し、全国の自動車関連学科の設置校の先生方の研究や研修の推進に尽力された猪口先生はじめ、自動車科の先生方のご苦労には、今でも深く感謝している次第です。

すばらしい技術を備え、常に研修に励む先生方のいる学校。そして、親切に一人ひとりに愛情を注いだきめ細かな教育をする学校。これが私の港工の印象です。これからもその特色を伸展させて欲しいと願っています。

最後に港工高が、このように着実に進展してきたのも同窓生の社会における活躍を見逃すことができません。

▼字は示している。この粘り強さの源泉は何であつたらうか。学校こそ、自分を磨き、自分を鍛え上げる道場だという意気込みか。また学問への強い執着心か。立身出世欲であつたかもしれない。しかし、

男児志を立てて郷関を出づ  
学もし成らずんば死すとも帰らじ、  
こういう気概はみなぎっていた。苦学生魂を持つていた。私は決して誇大ないいまわしや、造りごとをいつているのではない。これにくらべて、このごろの定時制生徒はどうであろうか。私の目には何かもの足りない。覇気がないというか野心がないというか、ただ情性で学校に通っているように映ってならない。教師と生徒のさけ得ぬへだたりが、私にこういう思い違いをさせているのであろうか。また全く私のひが目であろうか。それならば私は幸いである。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

在校生の就職の際、先輩の活躍と信頼が大いにプラスになっていることと確信しています。PTAや後援会の皆様方にも、いろいろご支援いただきましたことも心に残っています。

50周年記念に際し、同窓生ならびに関係される方々に、心からお祝い申し上げます。私のお祝いのごとばといたします。

事務局からお知らせ

◎会則改定による賛助金のお願い  
平成29年度の総会案内及び会報は、恩師及び賛助金納入者（1,500部）、秋の臨時号も同様に送付しました。賛助金は481名の方に送金戴き、前年比約2%若干の減少でした。本年の会報発送は、30周年記念につき、住所判明者全員（約4,400部）とし、賛助会員の拡大を計ります。

同窓会の収入は会員の賛助金・寄付金のみです。会報継続のため皆様のご理解をお願いします。

なお、秋の臨時号は恩師及び賛助金納入者のみに発送を予定します。

- ※郵便局のATM機を使えば、
- ①土曜・日曜・夜間も振込出来ます。
- ②同封の振込用紙をそのまま機械に挿入し、金額のみ押せばOKです。
- ※金額の変更訂正可能です。
- ③窓口より待ち時間が早いです。

★銀行口座振込みを受け付けます  
銀行 三菱東京UFJ銀行  
支店 433 新橋支店 普通預金  
口座番号 4753403  
口座名義 港工同窓会会長前田武男  
※必ず名前の前に会員Noを記入して下さい。

出来れば振込連絡をお願いします。

◎卒業生への諸証明発行について

都立港工業高等学校の閉校に伴い卒業生への諸証明の発行事務は都立六郷工科高等学校において受け付けています。

〒144-8506  
大田区東六郷2-18-2  
京浜急行「雑色」下車

国道沿い徒歩3分  
TEL 03-3737-6565  
ご不明の点につきましては、

東京都教育庁高等学校課  
TEL 03-5321-1111  
へお問い合わせ下さい。

◎会員数の把握状況		H30年4月現在		
区分	在籍数	確認数	(亡)	
正会員	高輪第一本科	771	50	(100)
	高輪第二本科	768	19	(96)
	麻布第一本科	485	89	(161)
	港・定時制	3,867	561	(110)
	港・全日制	9,774	3,395	(373)
計	15,665	4,114	(840)	
特別会員	旧校長	15	5	(10)
	旧職員	626	238	(153)
	計	641	243	(163)

☆平成29年度の収支状況

前期繰越額		1,611,372.-
収入の部		1,258,089.-
臨時会費	155,000.-	
賛助金 481名	962,000.-	
寄付その他	141,089.-	
支出の部		1,355,819.-
総会費 40名	361,176.-	
通信費	472,347.-	
広報費	411,986.-	
文化祭費	3,504.-	
事務その他	106,806.-	
次期繰越額		1,513,642.-

>同窓会の連絡先について<

住所変更の連絡、名簿内容の質問、同窓会ニュースへの寄稿、クラス会他近況等々は下記事務局又はHPへお願いします。

記

〒278-0051 千葉県野田市七光台 158-5  
港工同窓会 松岡 信之(会計理事・港 16期A)  
TEL 080-1278-1584 FAX 04-7129-0916  
E-mail: matsuka@minatokou.net  
・ホームページ : [www.minatokou.net](http://www.minatokou.net)

◇編集後記◇

ホームページが充実してきました。昨年理事として入局された19期E1加藤誠氏がホームページ担当として本格的に活動を始めております。(加藤氏の六郷祭見学記が当紙8ページに掲載されております)。ホームページは随時更新されております。同窓会ニュースは春・秋の2回発行し、紙面にも制限がありますが、ホームページは時期も記事のワクにも制限がありません。従って、クラス会の連絡などに使っていたらればより早く通知できます。投稿はメールでOKです。又は、原稿を事務局宛に郵送でもファックスでもかまいません。さて、今年が平成30年です。再建港工同窓会は平成と同じで今年が30回。だが来年6月の第31回同窓会は平成とはお別れで、新しい元号元年です。それでは我が同窓会も新しい形の1年とすべきでしょうか。皆様の御意見もお聞きしたいところです。大幅変更で無くとも、小幅の変更があるかもしれません。

同窓会のシンボリックな人材、高橋光春先生・加藤琢二先生がこの数年で相次ぎ逝去されました。この間、新たに数名の理事が参入されましたが、旧来の理事の高齢化もあり、「云」の維持が今迄通りではむづかしくなってきたのが現状です。